

目 次

I	研究テーマ設定の理由	61
II	研究仮説	61
III	研究の全体構想図	62
IV	研究内容	63
1	理論研究	63
(1)	主体的に活動することの意義	63
(2)	主体的に活動する児童とは	63
(3)	教師の支援とは	63
(4)	学級活動を支える学級経営	63
2	事前・話し合い活動・事後における教師の支援	64
(1)	事前の活動における教師の支援	64
(2)	話し合い活動における教師の支援	65
(3)	事後の活動における教師の支援	66
V	授業実践	67
1	題材名	67
2	題材設定理由	67
3	指導計画	67
4	本時の指導計画	68
5	検証授業の考察	69
(1)	仮説1の考察	69
(2)	仮説2の考察	69
6	実践（老人ホームでの交流会）	69
(1)	実践までの取り組みと交流会の様子	69
(2)	児童の感想と考察	70
VI	研究の成果と今後の課題	70
1	成果	70
2	課題	70

＜小学校 特別活動＞

主体的に活動する児童を育てる学級活動

—— 話し合い活動における支援の工夫を通して ——

玉城村立船越小学校教諭 永 山 公 子

I 研究テーマ設定の理由

21世紀を目前にひかえ、これからの学校教育には、豊かな人間性と自ら学び考える力など「生きる力」を育むことが重要であると言われる。変化の激しい社会状況の中で生きることを余儀なくされている児童が、自己を見失わず、しかも現在、将来にわたって自己実現を図るためには、主体的な生き方の指導が必要であり、この生き方と関連する領域として、特別活動の果たす役割は極めて大きいものとする。

特別活動は、望ましい集団活動を通して、「なすことによって学ぶ」教育活動である。その特質から、児童が互いに人間的に触れ合い、協力しあい、認め合い、そして自己を正しく生かす場や機会が多い。特に、学級活動の話し合い活動においては、児童が自分達の学校や学級の生活を豊かにし、向上させることを目指して、自分達で話し合い、解決し、実践していく。その過程を通して、児童が主体的に活動し、協力し合うことにより成就感や自己有用感を得ることができる。このような自主的な活動が積み重ねられると、活発で意欲的な学級の雰囲気が醸成され、各教科の学習の場でも反映し、様々な活動において主体的に取り組めるようになる。

しかし、これまでの実践を振り返ってみると、児童が話し合い活動の中で、自分たちの問題として真剣に考え、主体的に参加することが少なかった。一部の児童だけが発言し、よい意見があっても発言できない等、活発な話し合い活動が展開できなかった。また、話し合い活動の仕方がわからず、事前の計画が充分できていないことや教師の支援不足から児童の自発的・自治的活動になっていなかった。それらの原因をまとめると、次の2つではないかと考えている。

- ・児童一人ひとりが話し合いの意義を理解していないことや、何でも言えて、お互いのよさが受け入れられる学級の雰囲気作りがしっかりできていなかった。
- ・話し合いの運営の在り方が確立しておらず、児童の自発的・自治的活動を支えるための教師の支援の工夫が足りなかった。

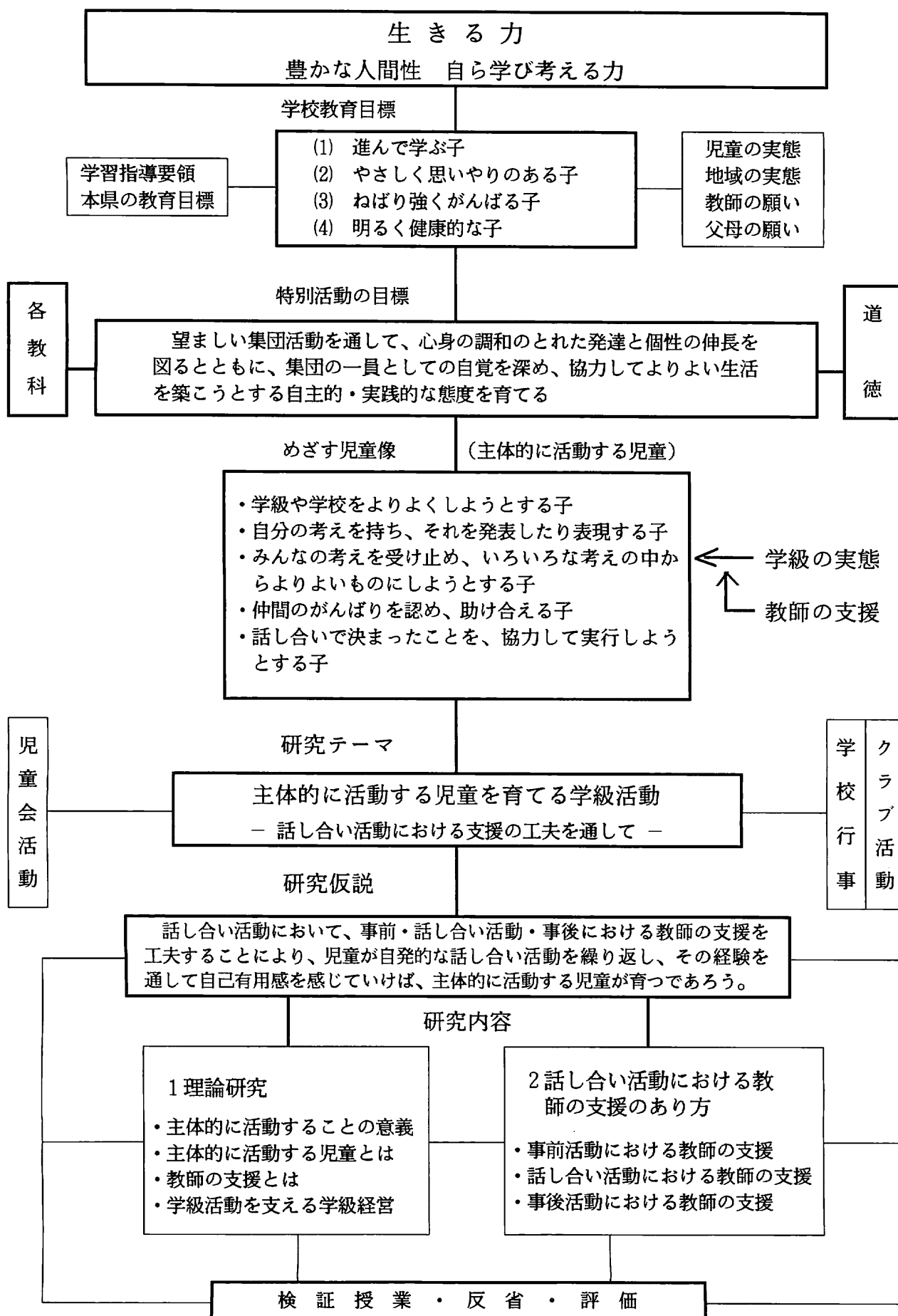
児童は、様々なよさや可能性を内に秘めている。そのよさや可能性を発揮できる時、意欲的になり、自分の課題や意図を解決したり実現したりする。教師が、児童の様々なよさに共感し、支援すると共に、子供同士が互いのよさに気づき、認め合い、学びあえる学級経営をすることが大切である。また、話し合い活動で、児童が事前準備、話し合い活動の流れ、実践活動の一連の過程を理解し、自発的・自治的活動が展開できるようになれば、学級全員が同じ目的に向かって協力し、工夫し、実践していこうとする意欲も高まるのではないかと考える。その活動を通して、児童は多くのことを学び、共に成長し、自己有用感を感じていく。それらの活動の積み重ねにより、気づき、考え、行動するという主体的に活動する態度が育つのではないかと考える。

そこで、主体的に活動する児童を育てるためには、事前・話し合い活動・事後における教師の支援を工夫する必要があると考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

話し合い活動において、事前・話し合い活動・事後における教師の支援を工夫することにより、児童が、自発的な話し合い活動を繰り返し、その経験を通して自己有用感を感じていけば、主体的に活動する児童が育つであろう。

Ⅲ 研究の全体構想図



IV 研究内容

1 理論研究

(1) 主体的に活動することの意義

学級活動は、児童が主体的に実践する活動を通して自己実現を図ることを直接の目的にしている。児童が主体的に判断し、活動するということは、意思決定を児童が行うということである。それは、課題に直面しそれを解決するために、自分で考え、判断し、友達と協力しながら進めることであり、一言でいえば、自己決定するということである。そこで大切なのは、教師は、児童の主体的な態度を尊重し、その活動を見守り、出来映えよりも過程を重視することである。児童自身が自己決定するようになれば、教師からの支援があっても判断を誤り、失敗することが起こりうる。しかし、その失敗は、意味のある経験であり、むしろ、そのことに積極的な意義を認める必要がある。児童自ら、全力を尽くして自己決定した時には、失敗は学習として生きる。その失敗した経験を基にして、再び自己決定する機会が得られるならば、児童は飛躍的に成長し、その後の活動が一段と質の高いものになる。

学級活動においては、このように自己決定し、実践する体験を積み重ねることにより、児童一人ひとりに主体的に活動する力が育ち、さらにそれが生きる力にもつながると考えられる。

(2) 主体的に活動する児童とは

主体的に活動する児童とは「新たな課題に進んでかわり、自ら考えたり、判断したりして自己決定し、進んで試みたり、表現したりできる児童」と考える。さらに、話し合い活動において具体的に示すと以下のように捉えた。

- ・学校や学級をよりよくしようとする子
- ・自分の考えを持ち、それを発表したり表現したりする子
- ・みんなの考えを受け止め、いろいろな考えの中からよりよいものにしようとする子
- ・仲間のがんばりを認め、助け合える子
- ・話し合いで決まったことを、協力して実行しようとする子

(3) 教師の支援とは

生きる力を育む学習は、「児童が学習の主体」であることが大事である。それは、児童まかせというのではなく、児童が主体的に活動するようにたすけなければならない。このことは教科の学習はもとより、自主的・実践的態度の育成をめざす特別活動においては、特に強く求められるものである。そこで、児童自身が自らの課題に直接的に向き合えるように後押しし、自分の力で問題解決を図れるように促すのが、教師の支援である。具体的な教師の支援の方法を、以下のように考える。

- ①助言……児童自身が「こうすればいいんだな」と気づくように間接的に指導するヒントや手がかり
- ②励まし（肯定的評価）……児童の「よさ」や「状況」を認め、もっと前へ進むように後押しする教師の評価行動
- ③開かれた発問……児童自身が答えを組み立てたり、創り出したり、活動の方法を考え出したりするように促す働きかけ、あるいは発問
- ④学習の場づくり……主体的な学習の条件を整備し、活動の場を用意する教師の活動

(4) 学級活動を支える学級経営

子供は学校生活の多くを学級で過ごしている。したがって、学級経営のあり方は、特別活動の目標が効果的に達成されるようにするための基盤を作り、その展開を支える役割を担っているといえる。学級活動を展開し、より一層の成果を上げるためには、学級経営を通して日々の実践を見守りつつ、学級活動でその特質を生かし、子供が主体的に活動できるように支援に努めることが大切である。

① 子供達の力で運営させ、子供のよさに共感し、一人ひとりを認める。

特別活動においては、子供達の集団活動の質的な高まりの程度が、特別活動の成果を左右することになる。したがって、学級においては、学級活動を中心として、発達段階に応じて望ましい集団活動を着実に積み重ねることが大切であり、自分達の力で話し合いを進めるなど、子供の主体的な

活動が展開されるように適切に指導する必要がある。また学級が信頼関係に満ちていて、一人ひとりの願いが生かされる場であれば、望ましい社会性を身につけることができる。そのため教師は、子供達に集団の一員としての連帯感を養うとともに、子供のよさに共感し、一人ひとりを認め、子供が自己実現を図ることができるような学級経営に努めることが大切である。

② 子供同志が互いのよさに気づき、認め合えるようにし、十分な活動の場と機会を確保する。

学級は、子供にとって学校生活の基盤であるから、子供達は、様々な活動を通して友達と関わり成長していく。だが、子供一人ひとりが自分らしい思いや願いを表現し、実現できるようにするには、子供同士の人間関係や学級の雰囲気も大切である。友達と協力し活動する過程で子供は、友達との関係を深め、自分の特性を知り、活動への自信を持つことができる。したがって教師は、子供同士が互いのよさに気づき、認め合い、学び合えるような学級づくりに努めることが大切である。更に教師は、子供達の活動を促すため、十分な場と機会も確保するように配慮しなければならない。

2 事前・話し合い活動・事後における教師の支援

(1) 事前の活動における教師の支援

① 課題意識を高めるための支援

ア 子供達の願いやつぶやきを取り上げ、子供自ら課題に気づくように働きかける。

子供自ら学級生活の向上・充実を目指して学級の諸問題に気づくことができるようにするには、日々の生活の中で「学級に、こんなものがあったら便利なのに」「こんなことをしたら楽しいのに」「困ったな」「こうの方がいいのでは」など朝の会、帰りの会、当番・係活動、日記などからでた子供達の願いやつぶやきを子供自身が明確に意識するように働きかけることが大切である。また、子供の思いに「みんなで話し合ってみたら」などの声かけや援助を行うことにより、議題を発掘し、その思いが提案された理由や背景・提案者の考えや気持ちについて、一人ひとりが理解し・共通認識の基に解決への意欲が高められるようにすることが大事である。

イ 「やってみたい・がんばろう」という気持ちや必要感を起こさせる。

事前活動において「こんなことができたなら素晴らしいね」と、その価値に向かってもっと頑張ろうという意識を奮い起こさせたり、これまでの似たような活動を紹介したり、作品や資料を提示することにより「自分達もやってみたい」「自分達もできそうだ」「なるほど大切だな」「これは問題だ」という意識を引き出すことが大切である。その楽しみや喜び・必要だといった感情は、積極的な活動意欲への動機づけとなり、主体的な活動へとつながるからである。(写真1)



写真1 事前の掲示資料

ウ 自分達ですることの素晴らしさを分らせる。

学年始めにオリエンテーションを持つなどして、話し合いの意義や位置づけ・流れなどを理解させ、自分達の力で、友達と協力しながら計画したり、実践したりすることの大切さを分らせる。また、日頃から、子供達の意見や発想で解決できたことを評価し、自己実現の喜びを味わわせるようにすることが大切である。

エ 一日を振り返ったり生活を見つめ直す時間と場の設定をする。

朝の会や帰りの会を利用して、グループで話し合う時間を持ち、学級の問題に気づかせるようにすることが必要である。

② 話し合いに意欲的に参加させるための支援

事前に学級活動ノートを配布し、計画委員会の児童が説明をして、一人ひとりが自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。また、教師も個々の学級活動ノートに目を通し、自分の意見を持つことのできない児童へ指導・助言をする。

③ 計画委員の組織・運営と活動計画作成における支援

計画委員は、司会・副司会・黒板記録・ノート記録・観察で構成し、学級全員が経験できるように輪番制とすることが望ましい。活動計画は、できあがった計画表よりはむしろ、作成の過程における教師の支援が重要である。教師は、話し合いの本番での干渉や教師主導に走らないためにも、計画委員会への事前の活動にきめ細やかに支援することが大切である。計画委員会の進め方（マニュアル）を準備し、それにそって、計画委員の子供で進められるように支援する。

ア 議題の選択について

議題を選択する場合には、議題選定カードを利用し、次の視点に照らし合わせて選べるように助言する。

- ・学級の生活を楽しく、よりよくすることか。
- ・今すぐ話し合わなければいけないことか。
- ・学級全員に関係していることか。
- ・自分たちの力で決められることか。

取り上げられなかった議題案は、どの方法で解決するか話し合わせ、提案者に返事が出せるようにさせる。学級の実態に合わせたり、児童全員に話し合いの議題としてふさわしいかを意識させるためには、学級全員で議題の選定を行う方法もある。

イ 話し合いの内容や順序・結論の方向性について

議題とその提案理由から、話し合いの柱や話し合う順序・話し合いのめあて・時間配分を考えられるように助言し、“どのような意見が出てくるか” “どのような方向の結論に持っていくか” など話し合わせ、話し合いの見通しを持たせる。

ウ 資料の準備について

“みんなが話し合いをしやすくするために、事前に準備する資料はないか” と投げかけ、アンケートや統計・グラフ・絵などを使い、より効果的な話し合いの展開を考えられるように、話し合わせる。（写真2）

役割分担をさせ、資料を準備させる。

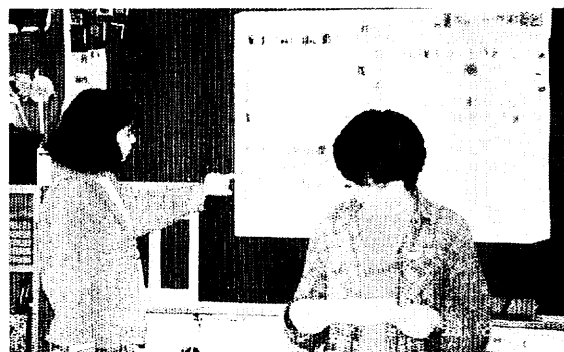


写真2 計画委員による事前資料の説明

④ 計画委員が、自信を持って話し合いの進行ができるようにするための支援

それぞれの役割の確認と話し合いの進め方を確認させる。学級活動の手引き（マニュアル）を全員に配布し、誰がでも会の進行ができるようにする。マニュアル外の事態への対応や子供の発達段階・一人ひとりの性格傾向にも配慮して、不安や緊張を取り除くように励ます。

(2) 話し合い活動における教師の支援

① 児童の発意・発想を大事にし、自治的な運営を見守る。

話し合い活動では、あくまでも児童の自発的・自治的活動として展開されることに意義がある。教師は、児童が話し合っている過程では、その進行を注意深く見守ることが大切である。しかし、こうした児童の自治的運営の中でも、教師の適切な指導が必要な場合がいくつかある。

- ア 話し合いの中で、児童の自治的な活動の範囲を超えるおそれのある場合に、それを制止するための指導（校時の変更、安全面、金銭の徴収などが児童だけで決められようとする場合）
- イ 話し合いの方法・技術（決の取り方やまとめ方なども含めて）に関する助言
- ウ 道徳教育・生活指導上、無視できない場面が生じた場合の指導（個と集団に対して望ましくない言動が認められる場合）

② 児童が協力し合って、話し合いの進行上の問題を解決するように促すような発問

自発的・自治的話し合いを進める過程で、《幾つもの意見が出て整理できない》《発言の内容が

不明確でよく理解できない》《賛成の意見と反対の意見に分かれてなかなか決まらない》など話し合いの進行上の様々な問題場面が生じることがある。そのとき児童自らが気づき、話し合いの進行上の問題について意見や提案が出されたり、お互いに補い合ったりするように導くことが大切である。例えば、「司会さんが困っているようです。誰か助けてあげる意見はありませんか」「〇〇さんの意見をどのように受け止めたか、言ってくれる人はいませんか」などの発問をし、児童が協力し合って、話し合いの進行上の問題を解決するように促すことが大事である。

③ 話し合いの終末における助言（先生の話）

話し合いの終末での助言は、児童の自発的・自治的な運営を励ますとともに、児童の実践への意欲を喚起したり、次回話し合いへの活動意欲が高まるようにすることが大切である。

- ・児童が決めた活動内容を承認
- ・実践への意欲づけ
- ・司会や記録など役割を果たした児童へのねぎらい
- ・進行上の工夫についての賞賛・助言
- ・少数意見に対する配慮

④ グループ討議を取り入れる。

学級全員の前で、自分の意見を発表することが苦手な児童でも、グループ内では安心して活発に発表できる。そこで、話し合いの中にグループ討議を取り入れ、一人ひとりの児童に発表する機会を与え、発表に慣れさせることにより自信をつけさせる。更に、机間巡視や終末の先生の話でも認め励まし、参加している満足感を味わわす。

ア グループ討議用のワークシートを作成し、司会を決めたり、手順を示すことにより話し合いが深められるようにする。（資料1）

資料1 グループ討議用ワークシート

グループの話し合いワークシート
グループ（ギョウギョウ）リーダー（わかれ）

話し合いの順序

1. 今から（みんな）で（ ）について話し合います。
2. 自分の意見をまとめてください。時間は、（ ）分です。
3. まとまりましたか。では、（ ）さん、先から発表してください。わけよくわくわくしてください。

名前	意見	意見（聞くまわりの意見）
あいか	意見を言う	あいかの意見は、みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。
さやか	意見を言う	さやかの意見は、みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。
わか	意見を言う	わかさんの意見は、みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。

4. 意見をまとめてください。何にしますか。いくつかの意見のいいところを合わせてもいいと思います。

意見	意見（聞くまわりの意見）
あいかの意見は、みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。	あいかの意見は、みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。
さやかの意見は、みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。	さやかの意見は、みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。
わかさんの意見は、みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。	わかさんの意見は、みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。みんなの意見とよく似ている。

5. では、私達グループの意見は（ ）でいいですか。

6. これで、グループの話し合いが終わります。

⑤ 個に応じた「よさ」を見だし励ます（直接言葉で・日記・学級新聞・学級通信・家庭に電話）

教師は児童の話し合いの様子から、一人ひとりの児童にあったよさを認め、学級集団の中で、どの児童も役に立っているという思い・有用感を味わえるように努めることが大事である。児童個々のよさを、教師自身が認め励ますことによって、児童が互いの意見のよさに気づき、互いを認め合う素地を作ることができるのである。

(3) 事後の活動における教師の支援

① 実践活動における支援

自分達で考え、知恵を出し合い、判断して決めたことを自分達の力で実践できた満足感や成実感、次の活動へとつながるものである。また、実践に向けて役割分担し、活動する中で、一人ひとりのよさに気づいたり、自分にもできることがあるという有用感を感じることができると考える。

ア 子供達が互いに支え合い、協力し合って活動できるように、活動の過程を報告しあい、賞賛し合える場を設ける。

イ 低学年では、教師と一緒に活動したり用具が使い易いように準備し、中学年以上では、係やグループの意見調整等を密にさせ、児童一人ひとりのよさが生かされるようにする。

ウ 実践の過程で生じる様々な問題は、どうしたらよいか自分達で考えさせ、解決できるように促す。また、実践してみると、話し合いが不十分であることに気がついたり、決定したとおりに実践しにくかったりすることがある。だが、問題を解決しながら、頑張ってやり遂げられるように支援し、その過程の大切さに気づかせ、更にその失敗を次の活動へ生かせるように助言する。

② 振り返り（反省・評価）における支援

ア 自己評価や相互評価を通して、友達のがんばりや活躍・よさを認め合えるようにし、達成感や充実感・自己有用感を抱くことができるようにする。また、友達のよさに気づいた子を教師が認

め、賞賛し、児童に認め合える心を育てていきたい。

イ 児童なりのよかったことや直したいところ(改善点)なども書かせ、次回への意欲づけをする。

ウ 一人ひとりの頑張りと個性に応じたよさを認め、いろんな手段でほめ・励ます。

V 授業実践

1 題材名 老人ホームでの交流会をしよう

2 題材設定理由

(1) 指導観

指導に当たっては、交流会を自分たちで話し合い、計画し、実践できるようにさせたい。その過程を通して、友達や学級の仲間と協力し、心をひとつにして交流会を作り上げたという満足感や成就感を感じられるようにしたい。また、計画委員会の児童に、事前の活動で「みんながイメージを膨らませたり、具体的に考えられるようにするにはどんな資料を準備したり、活動をするとういかな」と助言し、いろいろな考えがでるように声かけしたい。発表が苦手な児童が、発表をしやすいようにするためには、話し合いの中でグループでの話し合いの時間を持ち、その小集団の中で発表できるように励ましたり、事前に自分の考えを書かせた学級活動ノートで教師が点検し、指導助言することにより発表できるようにさせたい。

3 指導計画

月日活動	活 動 内 容	支 援 ・ 手 だ て
11月30日 朝 の 会	構成的グループエンカウンター実施、初めての経験なので、やり方を理解しながら楽しむ。	グループエンカウンターの説明、楽しい気持ちで参加できるようにさせる。
12月1日 学 級 活 動	学級活動について・学級についてのアンケート、エンカウンター実施「ブレンストーミング」	出てきた意見を否定しないのが大切なことを話す。
12月2日 道 徳	「東風園の人たち」(奉仕勤務) ※ワークシートに「おじいちゃんおばあちゃんを喜ばせたい・いっしょに遊びたい」の感想有	4年生の頃の老人ホーム慰問の時のおじいちゃんおばあちゃんを思い出させ、考えさせる。
12月4日 学 級 活 動	話し合い活動の流れを再確認。議題をグループで考え全員で議題の整理決定をする。	議題を集会的な内容と学級で困っていることの二つに絞り考えられるように助言する。
12月5日 朝 の 会	道徳のワークシート、議題カードから交流会を学級活動で取り組むことを確認する。題材についてのアンケートをする。	全員で共通理解し、意欲的に望めるように励ます。
12月9日 放 課 後 計 画 委 員 会	話し合いの計画をたてる。 (柱立て・時間配分・役割確認・資料準備について。)	計画委員の役割の重要性を話し、意欲を高める。話し合いが活発になるにはどんな資料が必要かと助言し、話し合わせる。
12月10日 休 憩 時 間 放 課 後	ブレンストーミングで、イメージづくり・いろんなアイデアを出す。他校の交流会の写真を見て様子を知る。グループ編成。何をするか考える。	おじいちゃんおばあちゃんからイメージするもの・やってあげたいことを思いつくままに言い合い、楽しみながらアイデアを出させる。
12月12日 計 画 委 員 会 (老人ホームにて)	老人ホームの職員の方と話し合いを持つ。交流場所の確認。おじいちゃんおばあちゃんが喜ぶことなど聞きたいことを質問。	事前に老人ホームに行くねらいを話し合わせ、質問や見学の視点について考えるように助言する。
12月14日 学 級 活 動 放 課 後	議題「どんな交流会にするか。」 グループは、交流会に向けての計画・準備。	子供の意見・発想を大事にし、自治的運営を見守る。個のよさを認め、励ます。実践への意欲を高める。
12月15日 帰 り の 会	次回の学級活動の説明と話し合いノートを配布。事前に考えを書く。	“おじいちゃんおばあちゃんが喜ぶには”との視点に目を向けられるように助言する。話し合いの見通しがもてるようにさせる。
12月17日 放 課 後 計 画 委 員 会	グループでの取り組み。グループは交流会でやることの練習と説明の準備 学級活動についての打ち合わせ。	それぞれの役割の目当てを持たせ、やり遂げられるように励ます。
12月18日 学 級 活 動 (本 時)	議題「おじいちゃんおばあちゃん達を喜ばせるには、何をするとよいか考えよう。」	子供の意見・発想を大事にし、自治的運営を見守る。司会を励ます。交流会への意欲を高められるように助言する。
12月24日 道 徳	車椅子の介助体験 車椅子の取り扱い方を理解する。	乗っている人の気持ちに気づかせる。 当日のことを考えて、操作させる。
12月26日 老人ホームにて 交 流 会	老人ホームにて、交流会を実施。交流会をしておの感想と自己評価。他の子の頑張りにについても書く。 (相互評価)	協力しあって会を進行できるように励ます。喜びを分かち合えるようにする。 自分達でできるように見守る。
1月7日 国 語	交流会のビデオを見て、自分たちの頑張りを思い出し、老人ホームの方達へお礼状・手紙を書く。	自分たちの頑張りを認め合い、自分の成長に気が付くように声かけする。 おじいちゃん達のことを気遣う心を育てる。

4 本時の指導計画

(1) 議題名 おじいちゃんのおばあちゃん達を喜ばせるには、何をするとよいか考えよう。

(2) 本時の指導目標

- ・積極的に話し合いに参加しようとすることができる。
- ・みんなの考えを受け止め、いろいろな考えの中からよりよいものにしようとするすることができる。

(3) 授業仮説

- ① 話し合い活動において、計画委員にみんなの協力が得られる工夫をさせれば、主体的な話し合い活動ができるであろう。
- ② 話し合い活動において、事前に考えをもって参加させたり、グループ活動を取り入れることにより、進んで話し合いに参加するであろう。

(4) 展 開

提案理由 提案者	朝日の家のおじいちゃんおばあちゃん達は、さびしいときもあると思います。だからおじいちゃんおばあちゃん達に、心に残るくらい喜んでほしいので提案しました。			
話し合いのめあて	友達の意見をしっかり聞き、一人ひとりがよく考えて、意見を言えるようにがんばろう。			
過程	話し合いの流れ	児 童 の 活 動	教 師 の 支 援	評 価
導 入	1. 始めの言葉 2. 歌をうたう。 3. 役割紹介 4. 議題の確認 5. 提案理由の説明と質問 6. 話し合いのめあての確認	・元気な声で話す（司会） ・楽しく歌う。 ・役割児童の自己紹介 ・議題の確認をする。 ・わかりやすく発表する。 （提案者） ・話し合いのめあてを確認する。（全員）	・緊張をほぐす。 ・自信と自覚を持たせる。 ・話し合いの視点を意識させる。	・積極的に話し合いに参加しようとしているか。 ・話し合いのめあてがわかっているか。
展 開	7. 話し合いの柱と話し合いの順序の確認 8. 話し合い ◎何をするとよいかを考える。 (1)どんなことをするのか各グループの発表 (2)グループの出し物以外にみんなで作るものを考えよう。 (3)意見を集約をする。 ・いいところ探し ・改善点 ・質問 9. 決まったことの発表	・どんなことをするのか発表する（グループ代表） ・友達の意見もふまえて自分の考えを発表する。 ・計画委員会が作成した資料を黒板係が掲示する。 ・グループでの話し合いをして、発表する。 ・友達の意見を聞き、いいところに着目して考えられるようにする。 ・ノート記録は、決まったことを発表する。 ・副司会は、今後の実践に向けての計画を発表する	・前もって話し合いの柱を知らせ、自分の考えをもって参加できるようにさせる。 ・各グループのやることを分かりやすいように紙に書くなど工夫させる。（計画委員） ・前もって絵を準備させ、わかりやすく発表できるように支援しておく。 ・一人ひとりの意見を事前に把握しておき、発表しない子の意見にも配慮させる。 ・おじいちゃんおばあちゃんの立場になって考えるように支援する。 ・発表が苦手な子も意見が言えるように支援する。 ・友達の意見も受け入れ、よりよい意見にできるように助言する。	・考えながら聞くことができたか。 ・自分の考えを持つことができたか。 ・みんなの考えを受け止め、いろいろな考えの中からよりよいものにしようとすることができたか。
ま と め	10. 話し合いの反省を記入する。 11. 観察係からの発表 12. 先生の話 13. 終わりの言葉	・自己評価と友達のよさも発見させる ・観察係の発表・がんばった友達を発表する。	・友達のよさを発見させ賞賛の場とする。 ・子供達のよさを取り上げ賞賛し、実践活動への意欲づけをする。	・自己評価すると共に友達の考え方のよさを見つけることができたか。（ワークシート）

(5) 評 価

- ・積極的に話し合いに参加しようとすることができたか。
- ・みんなの考えを受け止め、いろいろな考えの中からよりよいものにしようとすることができたか。

(6) 事後指導

- ・練習時間を確保し、協力しあいながら実践できるように支援する。

5 検証授業の考察

(1) 仮説1の考察

事前の活動のなかで、計画委員会に「みんなが話し合いをしやすくするために、準備できるものはないか」助言し、話し合わせたところ“自分のおじいちゃんおばあちゃんにしてみたらうれしいことを聞く”“老人ホームの人に質問する”“他の学校の人に聞く”などの意見がでた。そこで、計画委員会の児童と資料を準備したり、老人ホームで事前に質問をしたりして、話し合いに備えたが、授業後の児童の反省をみると

- ・みんなよく頑張っていた。・みんなよく考えていた。・良い意見がいっぱい出た。
- ・女子も手を挙げ発表できた。

などがあつた。また、「自分のめあては達成できましたか」という問いに対して、82%の児童ができたと答えている。このことから、計画委員会に、支援を行い、みんなの協力が得られるような工夫をさせることにより、主体的な話し合いができたのではないかと考える。だが、計画委員の児童から、大変だったとの声もあり、やや負担加重な面があつたので、児童の実態にあつた支援と時間の取り方の工夫が必要だと感じた。

(2) 仮説2の考察

発表が苦手な児童が、発表をしやすようにするための支援として、事前に個々の考えを点検をし、自信をつけさせたり、話し合いの中でグループ討議を取り入れるなどの工夫をした。その結果、グループの話し合いでは発表できたと答えた児童が83%おり、自分なりの意見を持ち発表できたと答えた児童が62%いたことから、グループ討議では、意見を言い合い活発に話し合いができたといえる。しかし、「意見を発表しようと手を挙げましたか」の問いには、36%の児童だけができたと答えていることから、全体の話し合いでの発表は、まだできていないといえる。グループ討議から、全体の場での発表ができるように段階をおっての支援を考えていきたい。

6 実践（老人ホームでの交流会）

(1) 実践までの取り組みと交流会の様子

交流会までに休憩時間や放課後・図工の時間を利用して、グループの出し物の練習やプレゼント作りを行った。自分達の話し合いで決まったことなのでグループで協力しながら、主体的に活動する姿が見られた。(写真3)12月26日、特別養護老人ホーム朝日の家にて交流会を行った。司会、あいさつ、カメラ・ビデオ、音楽係とそれぞれの役割を協力し合いながら頑張ることができた。話し合いで決まった手遊び(写真4)では、〈おばあちゃん達と仲良しになった〉との感想もあつたが、経験不足で、恥ずかしがり進んでできない子もいたことから、家のおばあちゃんと練習させる等のふれあいの経験を持たせる必要性を感じた。カチャシーは、頑張っていた。



写真3 プレゼント作り



写真4 おばあちゃんとの手遊び

(2) 児童の感想と考察

実践後の感想では、〈おじいちゃんおばあちゃんが喜んでくれたのでうれしかった〉〈最初は大変だったけど終わった後は、楽しかった。また行きたい〉等「おじいちゃんおばあちゃんを喜ばせたい」とのめあてを達成できた喜びを感じた感想が多かった。また、「自分達で考え・話し合い・計画して作り上げた交流会はどうでしたか」の問いには〈大変だったけど成功してよかった〉〈とてもおもしろかった。自分達で考えたことが水の泡にならなくてよかった〉〈考えてやった成果があった〉〈自分達でこんなにできたのは、すごいと思う〉等の感想から、やり遂げた成就感や自分達で考え実践したことへの満足感を味わうことができたのではないかと思う。このような自主的な活動が積み重ねられると、気づき・考え・行動するという主体的に活動する態度が育つのではないかと考える。

資料2 児童の感想

活動を終えて
月 日 名前()

☆老人ホームでの交流会を終えて
(おじいちゃんおばあちゃんの様子を見て、友達と協力してできたかな? 話し合いから自分たちでやってみて?)

おじいちゃんおばあちゃんは大変うれしかったと思う。最初(話し合いから)はとてもたがった。たけし、こうりゅうががんばった後は、とても楽しかった。またやりたいなあと思った。

☆友達、または学級全体で頑張ったなあ、すごかったなあと思うところを書いてください。
(グループの出し物・席の仕度・その他...) みんな頑張っていたね)

各グループの出し物や席の仕度はみんな、いっしょけんめいがんばったと思います。

おじいちゃんおばあちゃんグループは、たくさんのおじいちゃんをお招きしていたので、すごかったです。



写真5 老人ホームでの交流会

VI 研究の成果と今後の課題

1 成果

- ・老人ホームでの交流会を学級みんなの思いや願いを取り入れながら話し合い・計画し・運営することにより、子供達が活動に対する満足感を味わい、更にまた行きたいとの意欲もみられた。
- ・グループ討議を取り入れたたり、事前に自信を与えるなどの支援をすることにより、発表の苦手な児童が意欲的に話し合いに参加することができた。
- ・学級活動や話し合い活動の理論を研究することにより、特別活動における教師の役割や効果的な支援の具体的な方法を明らかにすることができた。

2 課題

- ・発表の苦手な児童への段階に応じた支援のあり方や、一人ひとりのよさを引き出す支援について研究を継続していきたい。
- ・話し合い活動の各学年における支援のあり方や年間を通した活動計画案について考えていきたい。
- ・主体的な活動を重ねるための評価のあり方を研究し、主体的に生きる力の育成に努めたい。

《主な参考文献》

文部省	『新しい学力観にたつ特別活動の授業の工夫』	東洋館出版社	1995年
宮川八岐	『主体的に生きる力を育てる学級活動と学級経営』	明治図書	1995年
高岡浩二著	『これからの小学校特別活動』	国土社	1993年
加藤辰雄著	『生き生き話し合い活動』	あゆみ出版	1994年